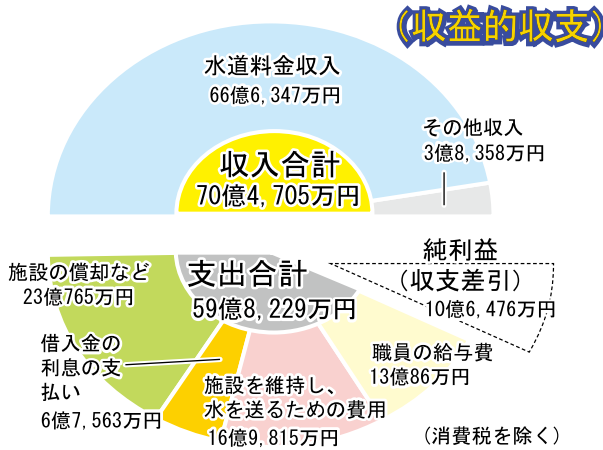


平成23年度 水道事業会計決算

南海地震対策として施設の耐震化への取組が急がれる一方、水需要の低迷から厳しい状況に置かれていますが、経営改善の継続により健全財政を確保するとともにサービスの向上に心がけ、市民に信頼される水道事業を目指してまいります。

ご家庭に給水するための収入支出



収入は約70億4千7百万円、支出は約59億8千2百万円で純利益は約10億6千5百万円となりました（消費税を除く）。この純利益は、資本的支出における借入金（企業債）の元金返済に充てるため減債積立金に積み立てる予定です。

また、収入のうち料金収入については、前年度に比べて使用水量が減少したことなどから約2億6千4百万円の減額となりました。

平成23年度に実施した主な事業

■ 送配水施設整備事業

東秦泉寺ほかで配水管を約2.4キロメートル布設しました。

■ 漏水防止対策事業

日の出町ほかで約11.5キロメートルの老朽管の布設替をおこないました。また市内全域で延べ約1,132キロメートルの漏水調査をおこない、452件の漏水箇所を発見しました。



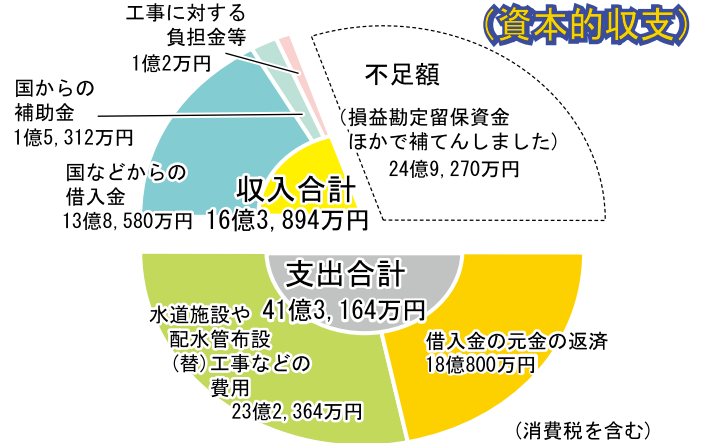
■ 災害対策事業

朝倉配水所の耐震性詳細診断をおこないました。また鏡川水道橋耐震補強工事(左岸側)に着手しました(平成24年5月完成)。

■ 増補改良事業

江陽町ほかで配水管布設替・移設工事をおこないました。平成21年度からの継続事業である旭浄水場(配水施設)更新事業は、平成23年度中に1号配水池築造工事が完成し、引き続き2号、3号配水池築造工事を進めて

水道施設を整備・拡充するための収入支出



収入は約16億3千9百万円、支出は約41億3千2百万円となり、約24億9千3百万円の収支不足となりました（消費税を含む）。この不足額につきましては、損益勘定留保資金（企業会計上、収益的収支において、減価償却費などの現金支出を伴わずに内部に留保される資金）、減債積立金などで補てんしました。

また、企業債は国の制度を利用して約1億7千2百万円の繰上償還を実施し、年度末残高は254億5千3百万円（平成22年度末に比べ約4億2千2百万円の減）となっています。

います。また、平成22年度からの継続事業である旭浄水場(導水施設)更新事業につきましては、シールドマシンが完成し、現在シールド工事を進めています。

また、水質管理のため平成22年度から引き続いて市内2か所への自動水質監視装置の設備工事などをおこないました。



■ 簡易水道施設改良事業

国の補助事業としておこなう鏡小浜簡易水道施設整備事業として、浄水施設等整備工事、導配水管布設工事などをおこないました。また同じく国庫補助事業として鏡・土佐山地区簡易水道の遠隔監視設備工事をおこないました。

■ 水源地域対策事業

水源かん養林の整備をおこなうとともに、水源地域との交流事業として「水ふるさとフェスティバル」や「早明浦ダム見学バスツアー」などをおこないました。